

# 岡山天体物理観測所の現況

泉浦秀行

with

浮田信治、神戸栄治、黒田大介、筒井寛典、  
戸田博之、福井暁彦、前原裕之、松林和也、  
柳澤顕史(五十音順)

2017年岡山(光赤外)ユーザーズミーティング

2017-09-04

# 内容

- 人事、人員
- 予算
- 施設・設備
- 共同利用
- むすび

# 人事(平成28年9月以降)(時系列、敬称略)

- 特任研究員任期満了退職 → 9/30(福井暁彦)
- 特任専門員採用 → 10/1(福井暁彦)
- 特任研究員採用 → 11/1(松林和也)

# 人員(平成29年9月4日現在、直接雇用)(敬称略)

- **総員 16**

- **承継職員 5**

- 准教授 2 (浮田、泉浦)
    - 助教 1 (柳澤)
    - 技術員 1 (筒井)
    - 事務係長 1 (田邊)

- **契約職員 11**

- 年俸制特任准教授 1 (神戸)
    - 年俸制特任研究員 1 (松林)
    - 年俸制特任専門員 1 (福井)
    - 特定契約職員 1 + 1
      - 専門研究職員 プロジェクト 1 (前原)
      - 専門研究職員 3.8m望遠鏡 1 (黒田)
    - 短時間契約職員 6
      - 研究支援員 1 (戸田)
      - 事務支援員 3 (渋川、片山、山下)
      - 業務支援員 2 (小山、渡辺)

# 予算

- 平成23年度(執行総額) ~ 1億500万円
- 平成24年度(執行総額) ~ 1億200万円※
- 平成25年度(執行総額) ~ 9500万円
- 平成26年度(執行総額) ~ 1億900万円
- 平成27年度(執行総額) ~ 9200万円
- 平成28年度(執行総額) ~ 9900万円※
- 平成29年度(年初配分額) ~ 8500万円  
(※ドームスリット扉駆動ワイヤーロープ交換)

- \* 但し、契約職員人件費と大学間連携事業経費  
(平成29年度を除く)を含み、外部資金は含まない。
- \* 承継職員が減り、契約職員が増え、物件費は減少傾向。

# 施設・設備など(2016年9月～2017年8月)(敬称略)

## • 188cm望遠鏡

- 2012年度の改修以来、順調に稼働。順次、小規模の改良を実施
- リモート観測が急伸した、年150万円前後の旅費節約効果 →柳澤ポスター
- 高分散分光(HIDES-F)全自動観測システムがさらに進化 →前原講演
- 鏡面洗浄＋反射率測定で性能維持 →戸田ポスター
- 鏡面アルミ蒸着作業実施(6月、広大1.5m鏡も)、簡素化と安全化を進めた

## • 188cm望遠鏡ドーム

- 2012年度の改修以来、順調に稼働。順次、小規模の手当を実施
- 2016.11にスリット扉駆動ワイヤーロープ用前シーブ更新と同ワイヤーロープ交換を予定通り実施
- 2017.08-09にドーム旋回駆動モータ新替と駆動部の調芯とスリット下扉ガイドレール補修工事を実施中 →ここ5年間の集中的補修は一応終了
- 今後の予定
  - 2017.XX ワイヤロープ調整のための足場設置
  - 2017.XX 昇降床の柵の安全対策
- 今後の利用者のために、所有者として、安全対策を進めている

# 施設・設備など(2016年9月～2017年8月)(敬称略)

- 観測装置 (ISLE, KOOLS-IFU, HIDES-F, MuSCAT)
  - ISLE: 維持中心、8月に深刻な障害、10日間キャンセル → ISLE柳澤ポスター
  - KOOLS-IFU: 維持中心、2016Bで188cm望遠鏡での運用終了、3.8m望遠鏡に向けアップグレード開始 → 太田・松林講演
  - HIDES-F: 高効率&高分解能(PI型)、天文コム試験継続中 → 神戸ポスター
  - MuSCAT: 2016BからPI型共同利用公開 → 成田・福井講演
- 本館、別館など建物
  - 主に維持活動、平成30年度以降の組織変更への対応作業中
- 他望遠鏡など:
  - 91cmOAOWFC: 銀河面変光星サーベイ&突発天体 → 柳澤講演&ポスター
  - 50cmMITSuME: 大学間連携事業:H23～H28課題最終年度、H29～H33課題初年度、粛々と活躍中 → 黒田ポスター
  - 65cm架台金属鏡: 科研費ベースの研究開発継続中
  - 30mm IRTMT: 視野5度角、東北大からリモートで銀河面変光天体探索中
  - 汎用機器制御ボード → 管理継続
  - 気象モニター&スカイモニター: 運用継続
  - DIMM: 運用休止中
  - 計算機、ネットワーク、データアーカイブ (SMOKA → 本間講演とポスター)
- 広報 → 戸田ポスター

## 共同利用(敬称略)

- プロジェクト観測 →佐藤講演
- 学位支援枠から学位 →Onizuka et al.2017
- 2017B:2017年7月24日開始、最終セメスター

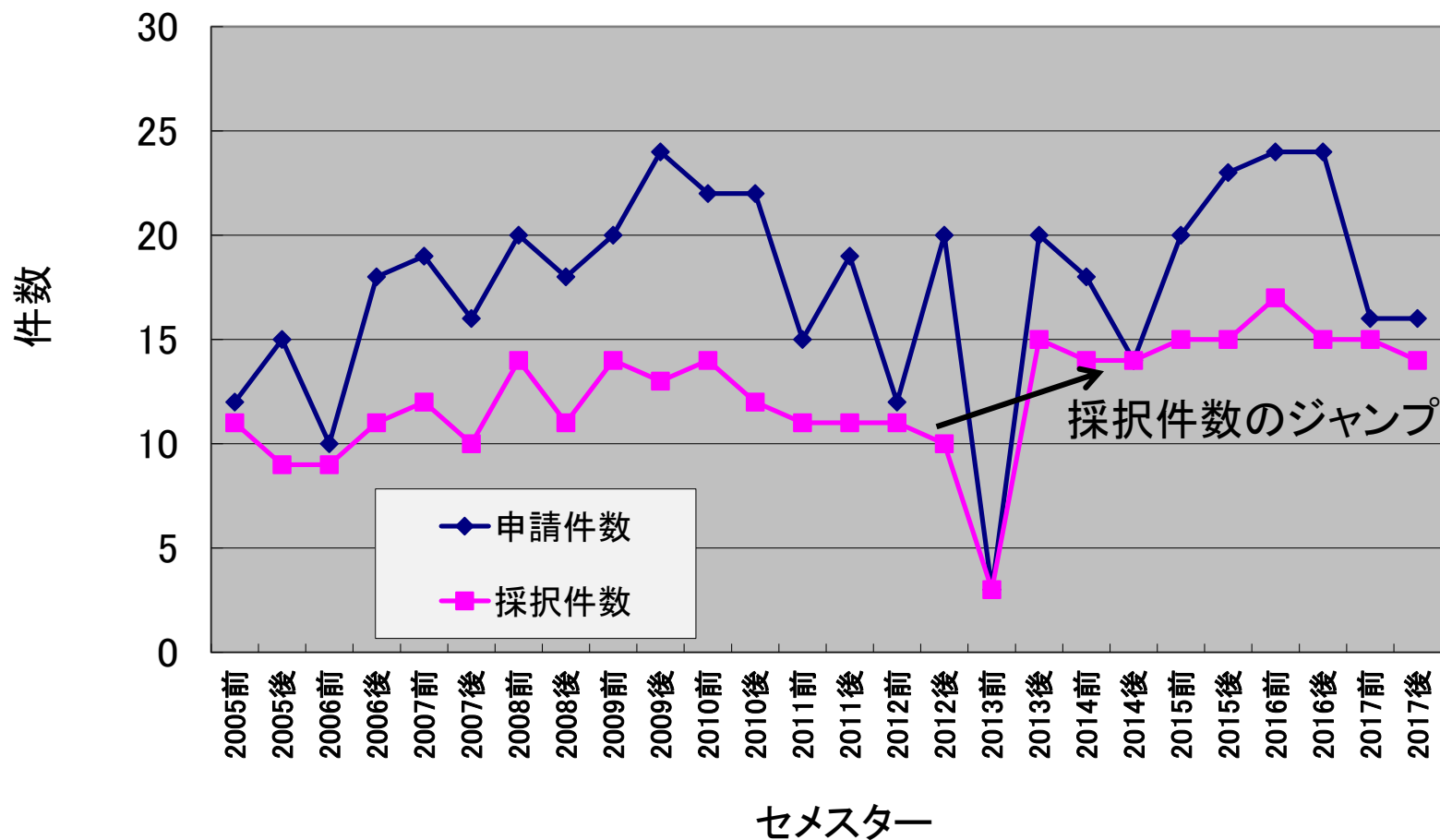
## 国際協力(2016年9月～2017年8月)

- 日韓共同研究(2005--): 欧文査読論文誌へ投稿、改訂中。→大宮ポスター
- 日土協力事業(2007--): 最初の系外惑星検出を報告(Yilmaz et al. 2017, A&A, in press)。
- 日中協力(2005--): 双方で観測を継続中。



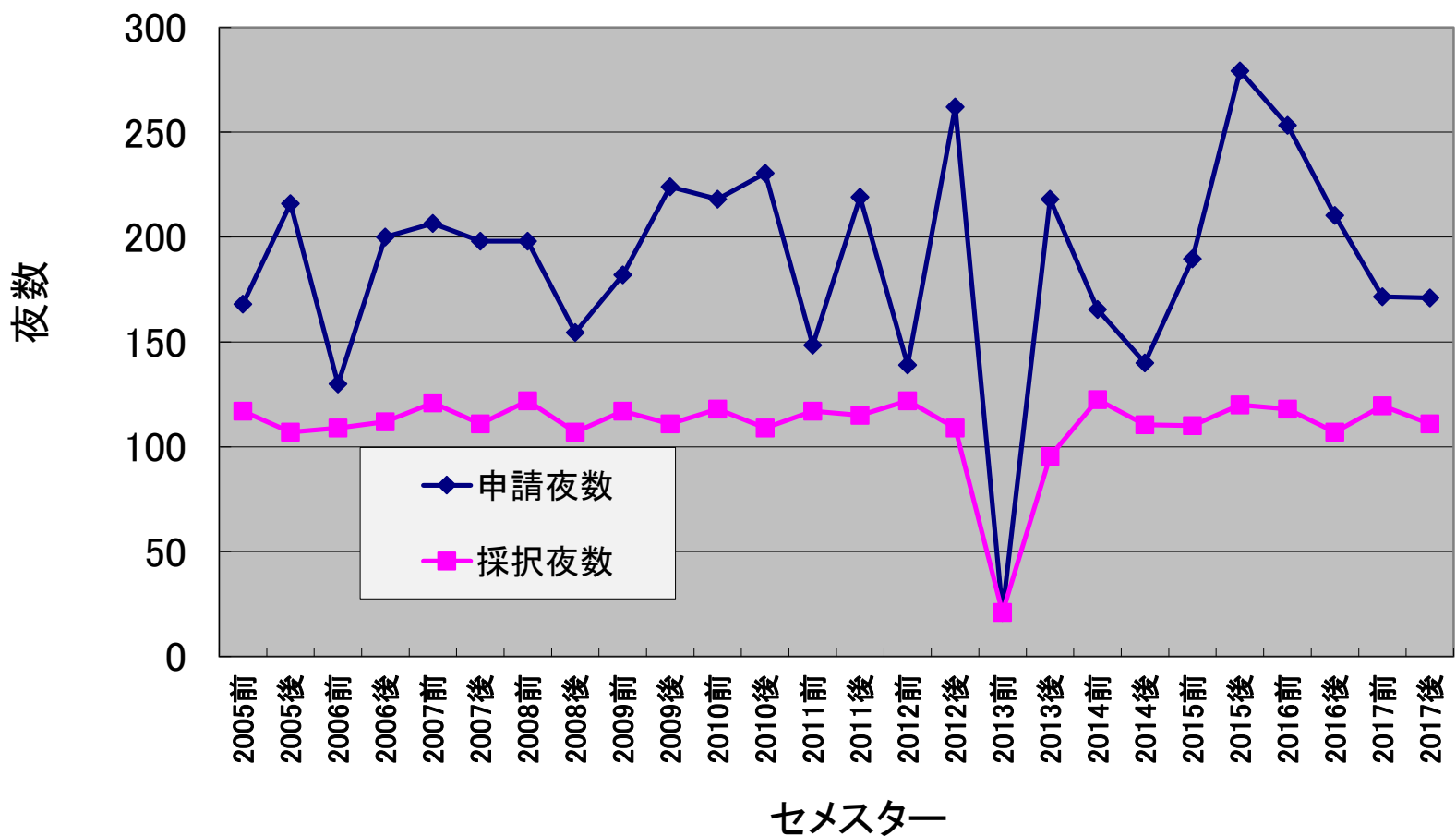
# 総申請件数と総採択件数

総申請件数と総採択件数(隙間観測含まず)



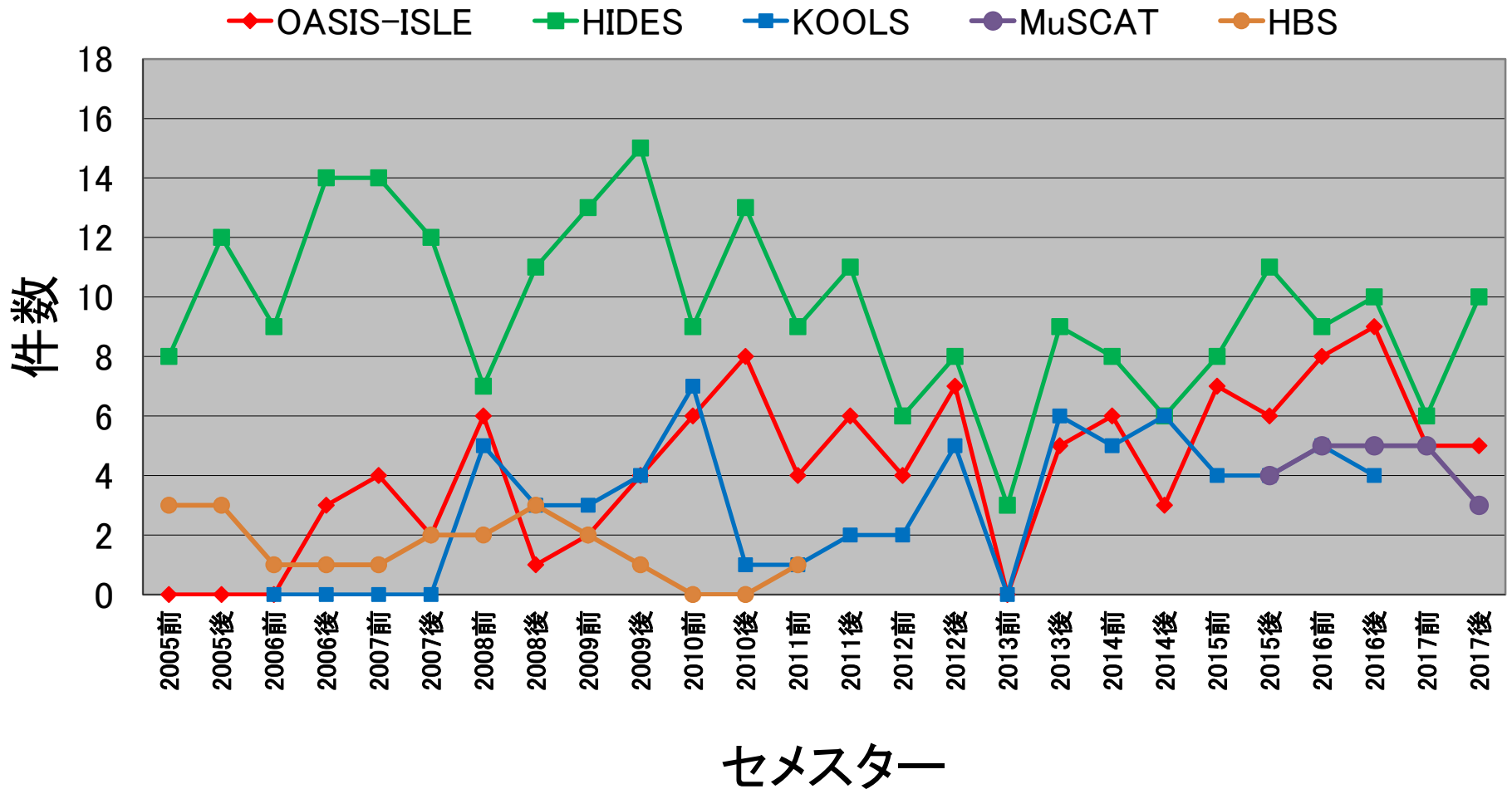
# 総申請夜数と総採択夜数

総申請夜数と総採択夜数(隙間観測含まず)



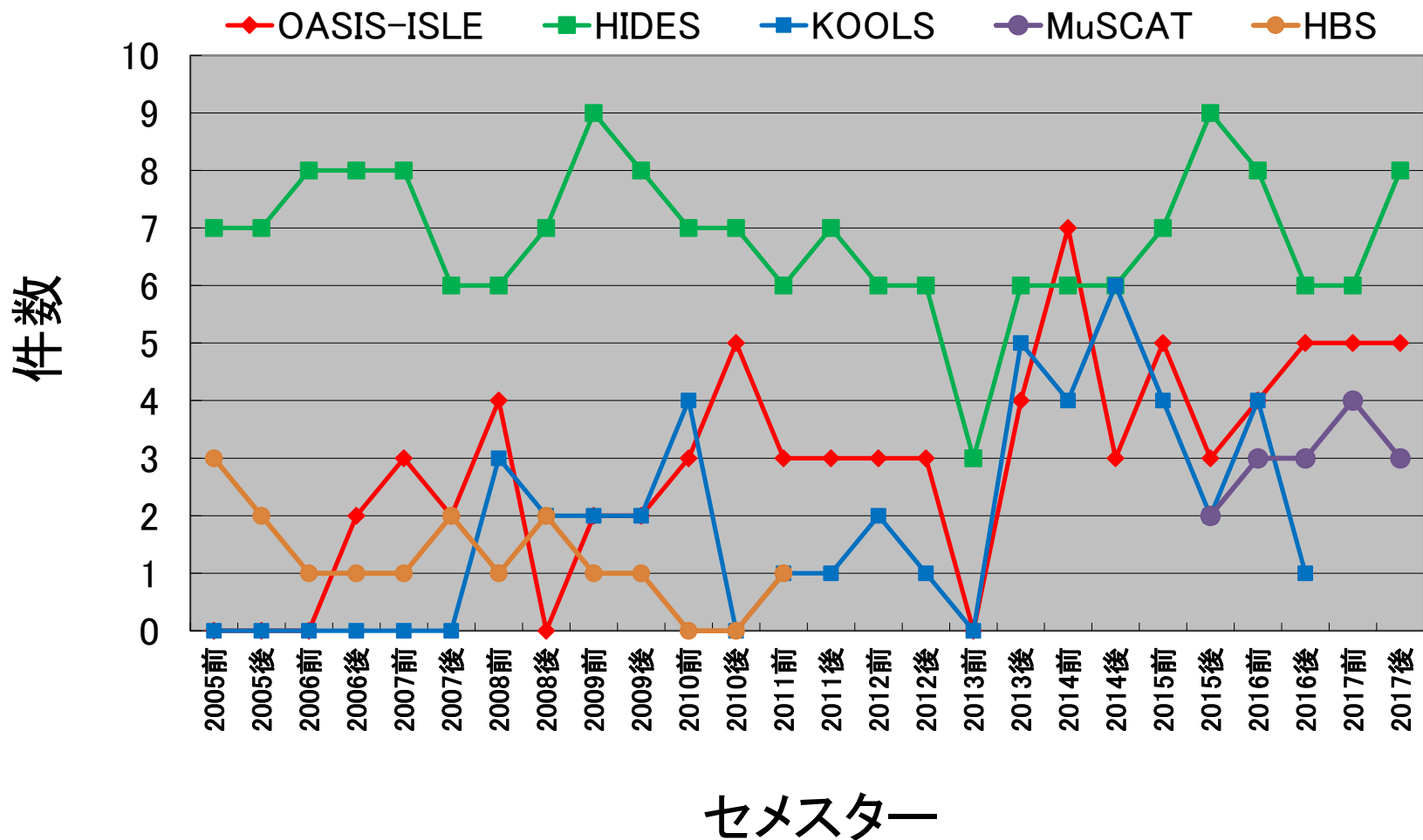
# 装置別申請件数

装置別申請件数(隙間含まず)



# 装置別採択件数

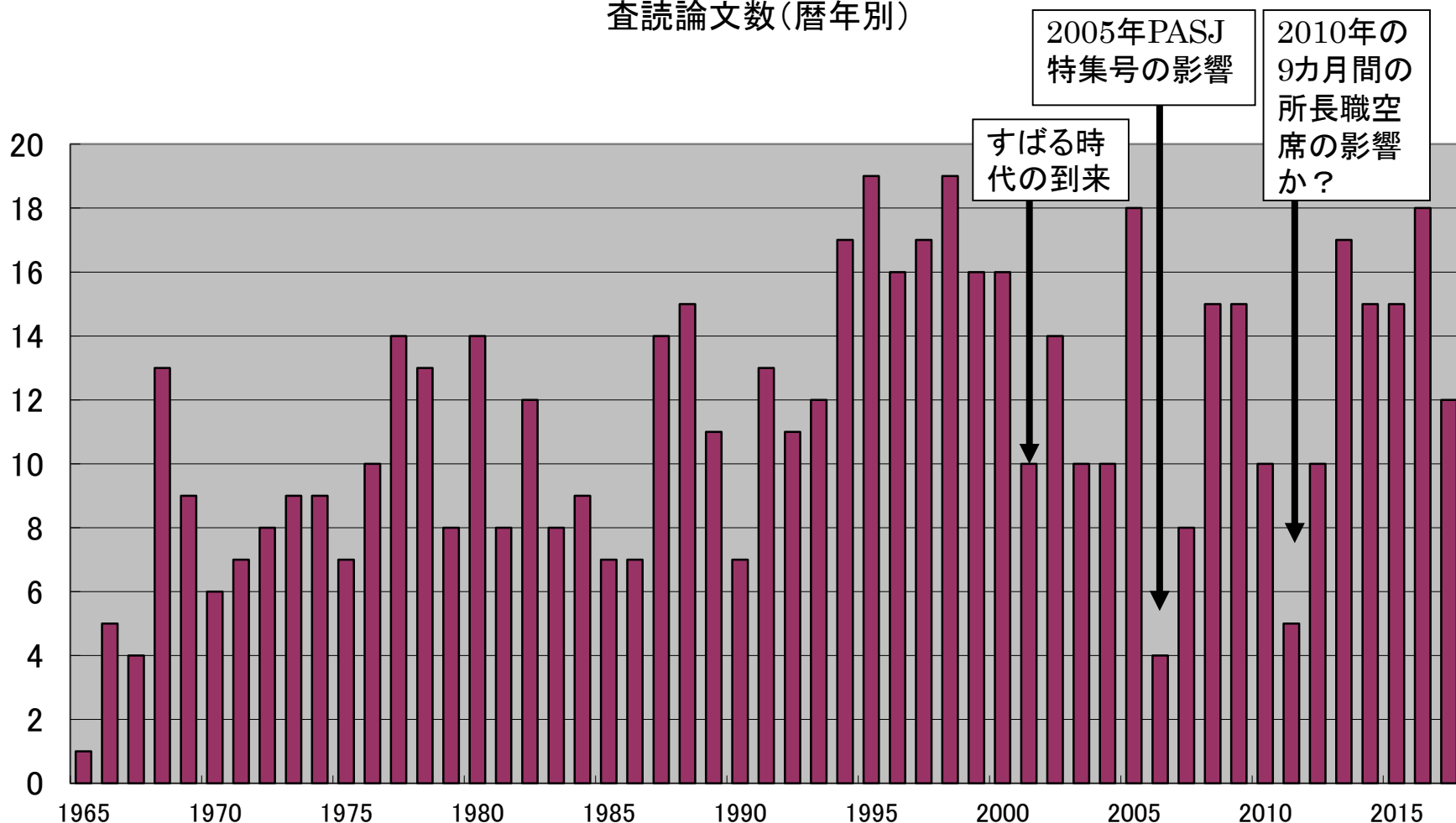
装置別採択件数(隙間含まず)



# OAOのデータが使われた欧文査読論文

(188cm, 91cm, 65cm, 50cmの全て、暦年別、2017年9月3日現在)

査読論文数(暦年別)



2000年のすばる望遠鏡稼働開始以降で最高アクティビティの期間にあると言える

# むすび：岡山天体物理観測所の全望遠鏡の 共同利用を終わるに当たって

- 論文の数は、観測所ファシリティを、強い関心を持って使ってくれる研究者の数にだいたい比例。
- その研究者の数は、地上中口径望遠鏡では、特徴ある観測装置の数にだいたい比例。
- つまり、岡山天体物理観測所が最後まで高いアクティビティを発揮できたのは、
  - 共同利用ユーザーの多大なる精神エネルギー投入の賜物
  - ユーザーの期待に応えようとしてきた観測所員の努力の賜物
  - それらが観測所予算の確保も可能とし、一層の向上にも繋がったと言えると思います。
- みなさまのこれまでのご支持とご努力に改めて感謝いたします。本当にありがとうございました。あと4カ月、最後までやり通します。
- 来年から、また新たな時代を築いて行きましょう！
- 今日明日の活発なご議論、今後の一層のご支持と積極的なご貢献をよろしくお願いいたします。